

両家代表謝辞 (2018年10月吉日)

釧路市医師会
市立釧路総合病院

森田 研

医師としての初期教育を受けた釧路で長男を授かり、その後二女を連れて、どこに転勤・留学する時も5人家族で引っ越しをして来ました。2016年に大学をようやく卒業して、釧路に4度目の赴任をするにあたり、5人で住み慣れたマンションを引き払い、子供たちはいつの間にか大きくなり社会へ巣立って行きました。

息子は東京のカタカナ2文字の名前のIT企業に就職し、ほどなく薬剤師の女性と巡り会いました。2018年の正月には釧路に連れてきて結婚すると言うので、2月に実家の富山へご挨拶に行きました。内地の伝統的な婚礼の準備を愚考しておりましたが、ご両親は「若い二人のために古臭いしきたりは省略しましょう」と言ってくれました。二人は顔を見合わせ、「では、ここで婚約指輪の交換をするから結納はそれで完了ね」と互いの両親に婚約許可を取り、何だか拍子抜けしたように一息ついて釧路に帰りました。

10月の日曜日に東京へ出張の折に二人と打ち合わせをしました。婚約者からは、私たち夫婦の結婚式の様子を細かく聞かれました。「時代が違うから二人のやりたいように考えたら良いよ」「当時はプロポーズや新婚旅行もしておらず、披露宴の二次会・三次会で仲間たちと遅くまで飲み明かし、妻から後々言われ続けたので、それだけは要注意」と伝えました。あとは私の両親の健康状態を式に合わせて整えることと、自分の披露宴の謝辞挨拶が最大の懸案事項でした。

数ヵ月前から両家代表謝辞の練習を妻に聞かせ、何度もダメ出しをされながら修正を重ね、前の週には何とか合格点を貰いました。初孫の結婚式にはしゃぐ両親を連れて銀座に前泊しました。当日、初めて着るモーニングで、キリスト教挙式の間も原稿を反芻し、披露宴でゲストにご挨拶をしながら、謝辞の内容に問題はないか、等々と考えました。

式場スタッフが謝辞の前にトイレは大丈夫かと言うので行きました。すると「挨拶の直前に新婦のアイデアでサプライズを組み込みます。プロポーズをしていなかったお父さんからお母さんへ、皆の前でプロポーズをしてください」ということでした。こぢんまりした花束も用意周到に準備されておりました。スポットライトを浴びながら、妻に何を言ったかよく覚えていませんが、極まっていた緊張の糸が、この上なく恥ずかしいプロポーズで完全に切れ、最初で最後の両家代表謝辞を、全く平常心で務めることができました。

「今更、よりによって息子の結婚式で…」と文句を言いながら花束を受けとった妻の怪訝な顔が、最も記憶に残る披露宴でした。

ここ20年を振り返って…

帯広市医師会
こしや糖尿病・内科クリニック

越谷 剛

今からさかのぼること20数年前、小生が北海道大学に通学していた頃の話になります。あるアマチュア将棋棋戦の札幌地区予選でした。札幌代表を懸けた将棋で、ある小学生と対局しました。途中までは小生が勝ちそうな状況でしたが(何をやってもいいくらいの状況だったと記憶しております)、その少年はそこから“妖力”を出し逆転負けを喫しました。負けた小生はあまりにアツくなってしまい、対局後の検討もせずその場を去ってしまいましたが、相手にあまりに失礼であったと今でも思う次第です。将棋盤を挟めば、相手とは基本的に対等であり、そこには性差も年齢差もないわけですから…。

小生が医師になってからまもなく18年が経とうとしております。当然のことではありますが、年々自分より年下の患者さんのお相手をするが増えてきました。この18年を振り返ると、職業上大事なことは年下の患者さんから学ぶことが多かったような気がしております。

若い方の糖尿病といえば、1型糖尿病の方、重症の糖尿病合併症を有している2型糖尿病の方、妊娠中の糖尿病患者さんなどのケースがあります。糖尿病患者さんの診療は、患者さんが治療中断や、他院に転医するということがなければ定期的にしなければなりません。特に状態の思わしくない若年患者さんを定期的に診療することは時折しんどさを感じることもありますが、そういった患者さんたちのおかげで現在の自分があるわけで、これからも日々頑張らないといけないと思う次第です。

当院は帯広市に2017年5月に開院しました。前職の帯広厚生病院在職時に比べると、若年の糖尿病患者さんをお相手することが多くなりましたが、これまでの経験を踏まえ、変わらず診療していきたいと考えております。

さて、先述した冒頭の少年、将棋をされる方はご存じの方が多いと思いますが、2018年に羽生竜王(当時)のタイトル獲得100期の記録を阻止しタイトルを奪取した広瀬章人竜王(この原稿を書いている時点では)です。20数年経った今となっては、「おそらく彼は途中まで緩めてくれて、“妖力”でも何でもなく順当に“実力”を発揮したものだ」と、勝手に自分を納得させております(笑)。ただ自分が弱かっただけと言われれば、反論のしようもありませんが…。

当時小学生だった彼が、将棋界の頂点の竜王位に就いたのは嬉しい反面、自分もそれだけ年をとったのだな…と感じる今日この頃です。